

ステノン管のコーンビームCTによる 3D造影所見

おひさま耳鼻咽喉科

五十嵐 良和

はじめに

耳下腺管狭窄症例を経験
耳下腺造影検査に
コーンビームCT検査を併用
耳下腺管の3D描出をおこなってみました。

診断に有用な印象をえましたので
ご紹介させていただきます。

症 例

49才 男性

H25年4月3日昼食後 左頬の腫れが出現
歯科受診 問題ないと言われ当院受診



左耳下腺腫脹あり

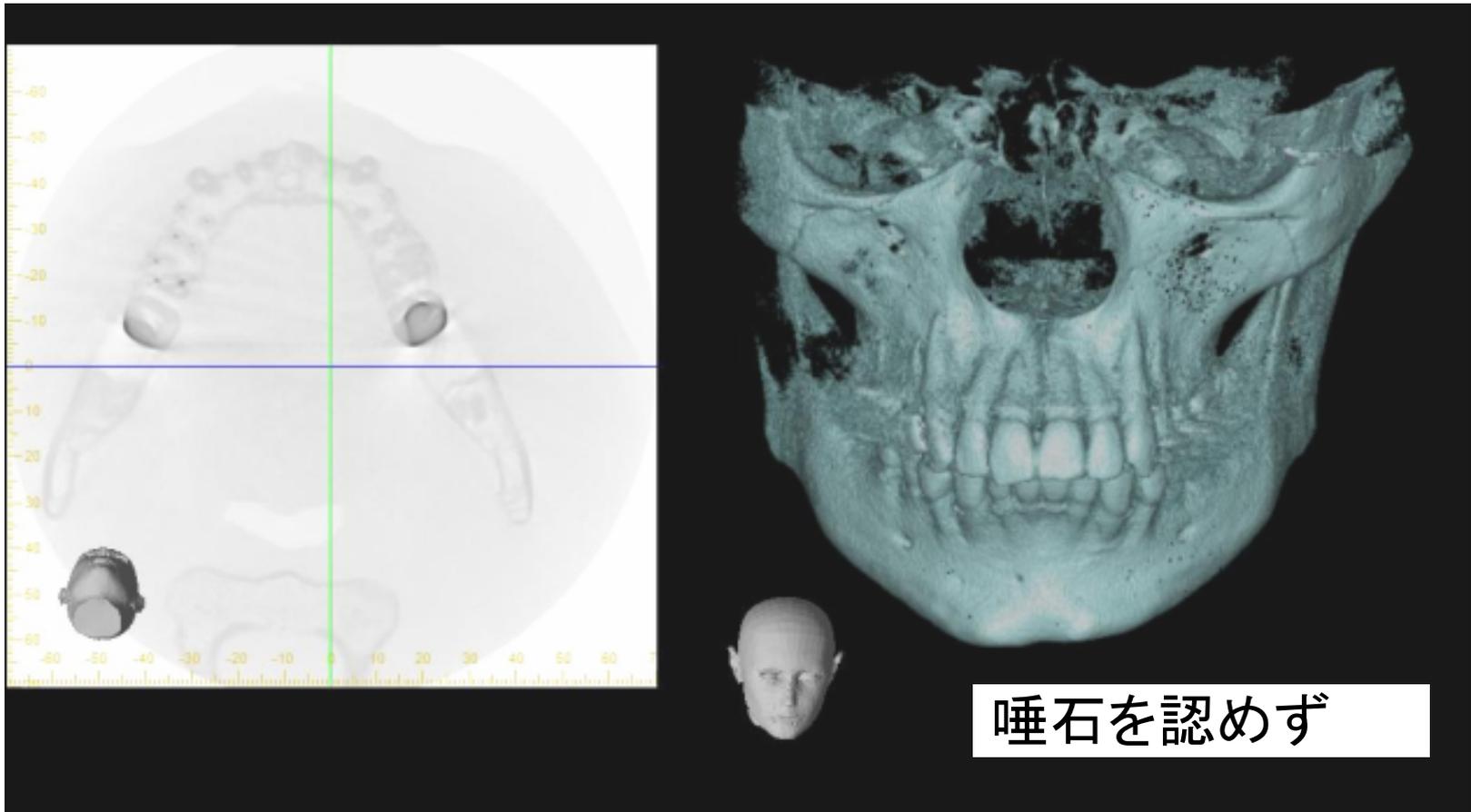


開口部からの排膿なし

コンソールとCT装置



単純CT(唾石のチェック目的)



抗生剤(フロモックス) 3日分処方 その後 しばらく再診なし

血液検査 アミラーゼ 1010 ↑ WBC 11400 ↑ CRP 0.06
ムンプス抗体価 IgG ↑ IgM 正常

経過

H25年8月2日（初診から約3ヶ月後）

朝食後 左頬部の違和感、腫脹、痛みが出現し、受診

初診のあと

約37°Cの微熱と頬部腫脹が2週間持続したとのこと



左耳下腺腫脹



開口部から排膿あり

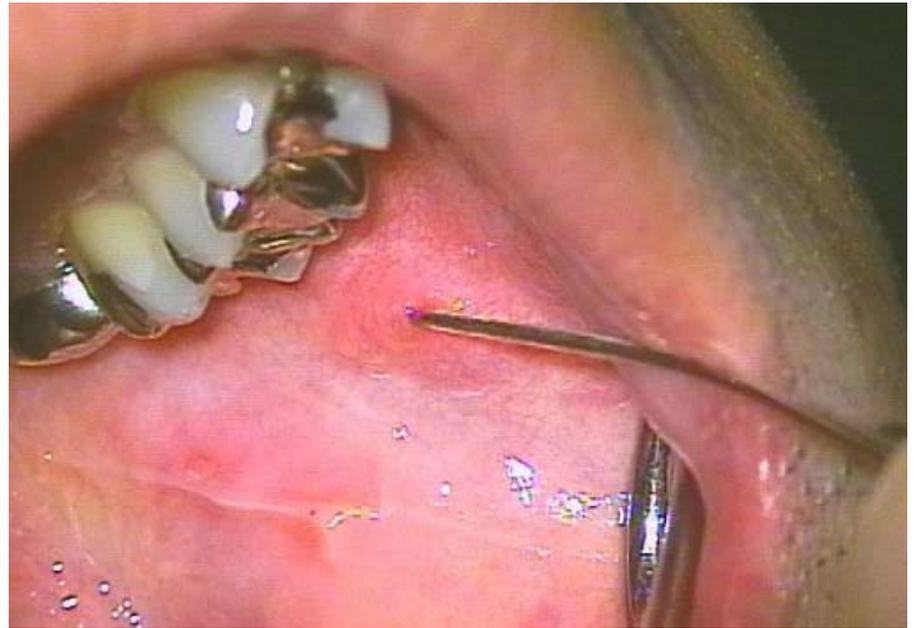
頬部圧迫による排膿(動画)



抗生剤で炎症改善後 耳下腺造影検査を施行

ブジーでステノン管開口部を拡大
造影剤(リピオドール)を注入
レントゲン撮影

さらにCT施行
(コストー)

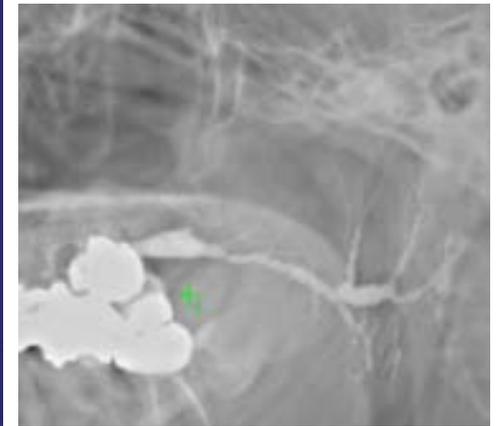
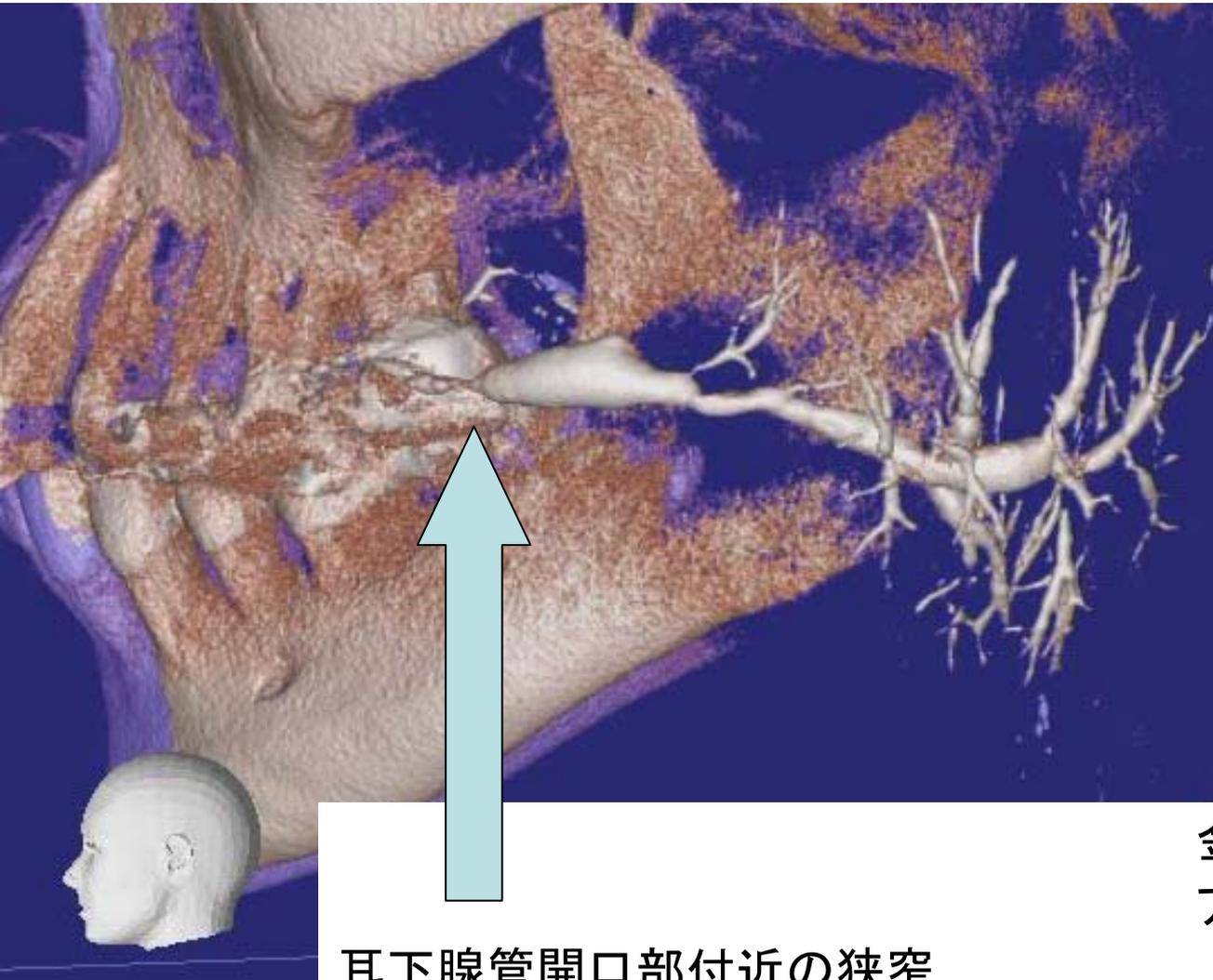


耳下腺造影(レントゲン)



耳下腺管の拡張と不整を認める

3D-CT 立体再構成



金属歯冠の
アーチファクトほとんどなし

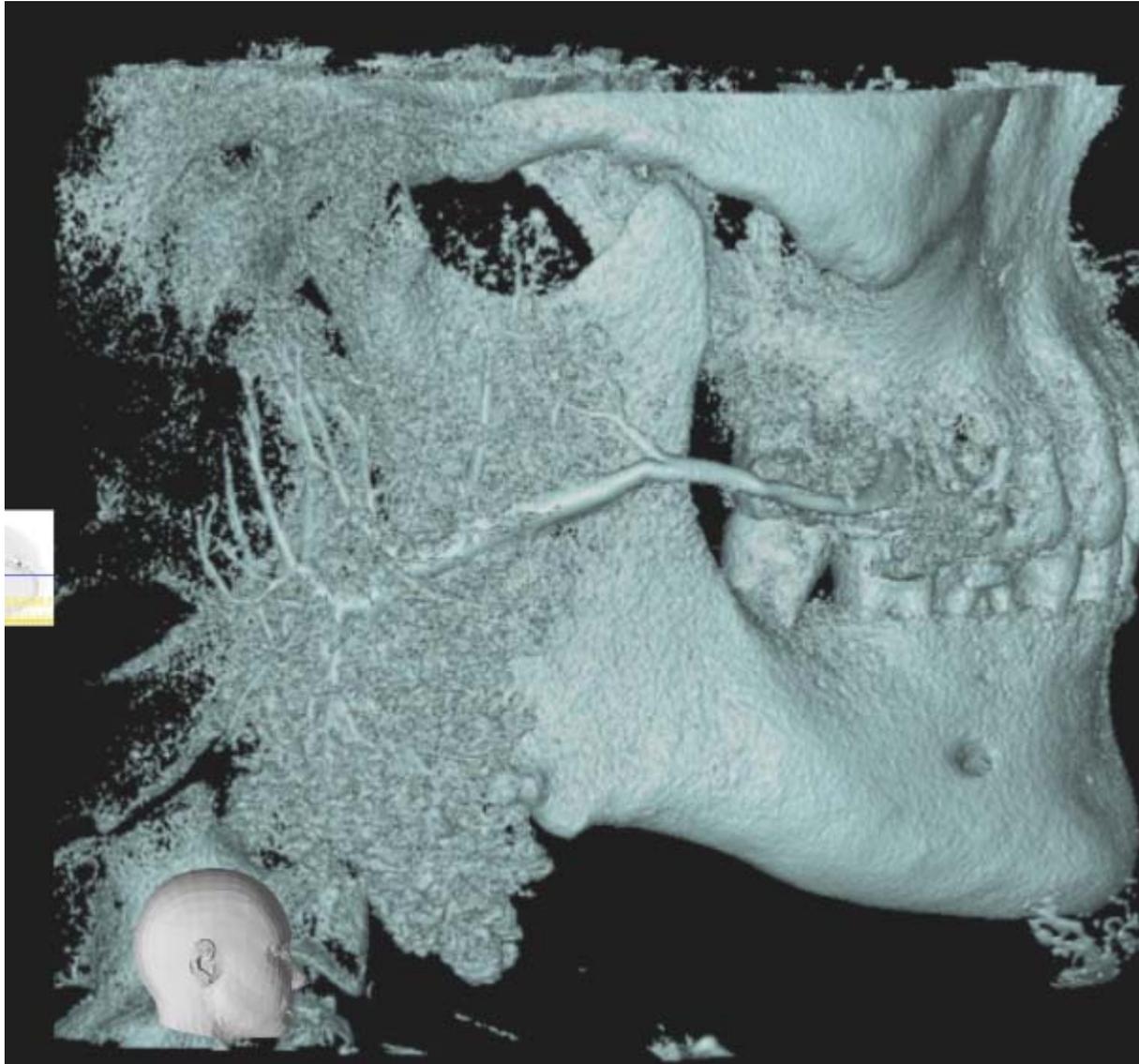
耳下腺管開口部付近の狭窄
狭窄部位より末梢の風船状拡大がよくわかる

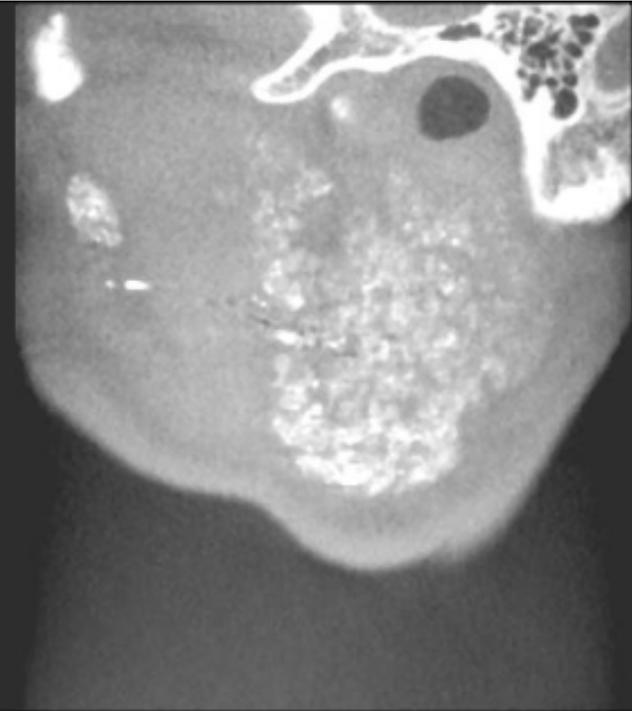
あらゆる方向から観察可能



その他の症例

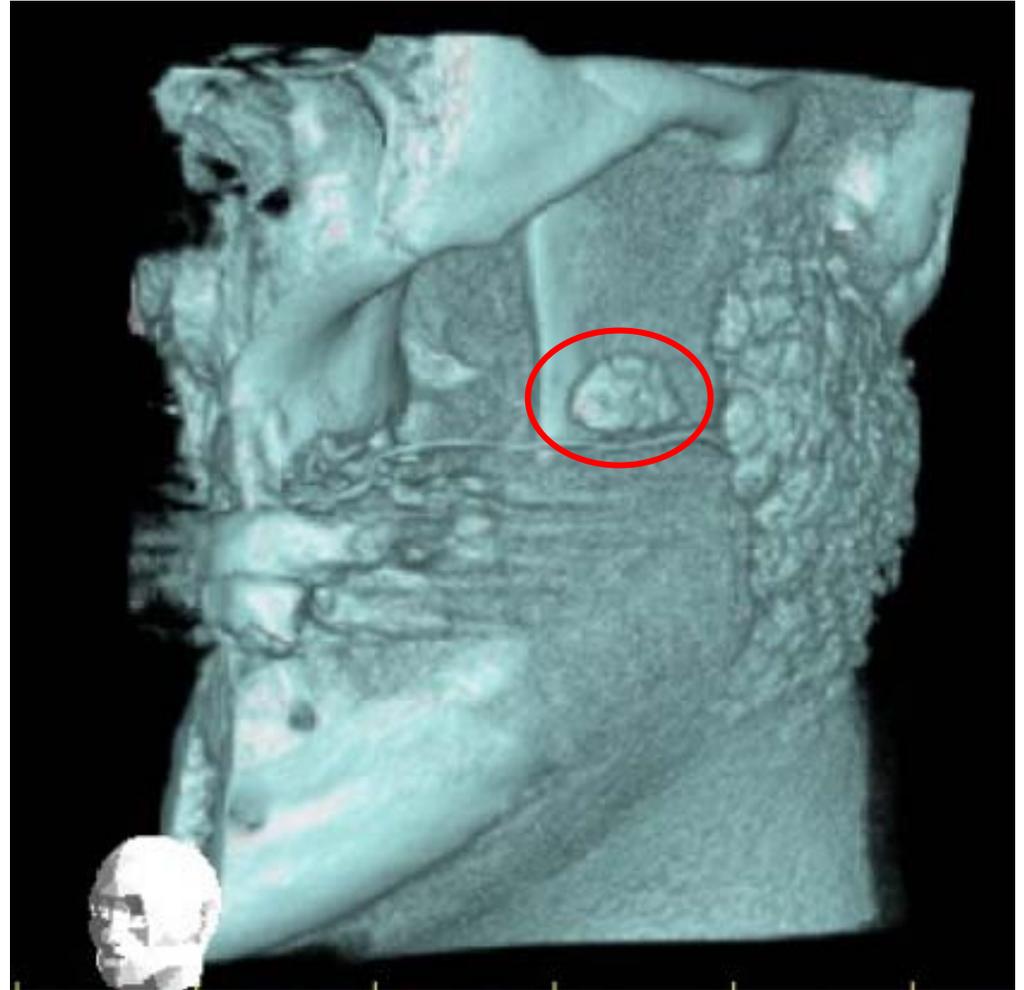
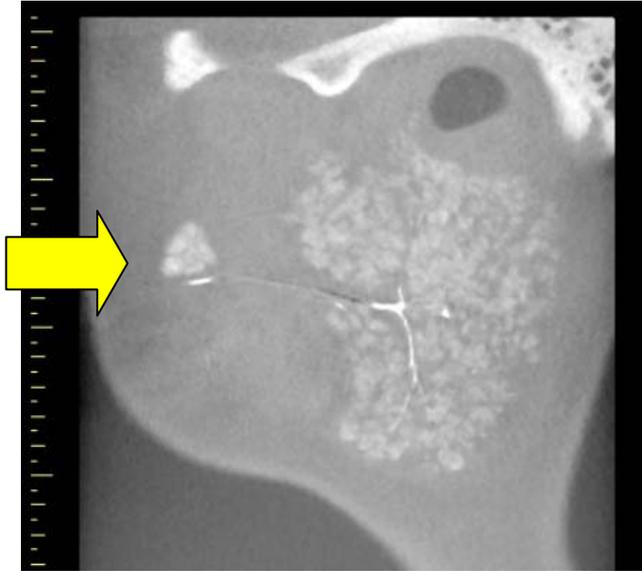
ほぼ正常と思われる症例





スライス
造影CT

副耳下腺を認めた症例



耳下腺管

耳下腺

副耳下腺 の構造が
立体的に理解できる

まとめ

- コンパクトなコーンビームCTを設置するクリニックが今後も増えると予想される。
- 現時点では、耳・鼻・骨折の単純CT検査が中心だが、今回提示した造影検査も診断に有用であることが示唆された。
- CT検査を適切に用いることでクリニックレベルの診療内容が向上し、地域全体の医療レベル向上に貢献できれば幸いです。